

1年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は平仮名の学習を一通り進めたため、言語指導に時間を要し、その分読むことや書くことの指導時間が不十分だった。 ・音読・繰り返し練習は宿題で補うようにした。 ・自分の考えを発表することはできるが、伝え合いの力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の時間は、宿題と合わせて基礎学習の時間を活用する。 ・読むこと、書くことを計画的に指導し増やしていく。 ・伝え合いの活動を多く入れるようにし、隣同士のペア、グループ、クラス全体と段階的に人数を増やすことで心的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能が十分とはいえない。 ・問題の読み取りや立式の力が全体的に不十分である。自分で問題文を読んで意味を理解できない。 ・個人差が大きく、個別指導が必要な児童がかなりいて、支援が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日計算カードを使った計算の宿題を出し、継続的に計算練習を行わせる。 ・計算力が身に付かない児童には、具体的な操作活動を多く取り入れ、理解を助ける。 ・問題文の意味を正しく理解できるように、キーワードに線を引くなど具体的に取るように支援する。 ・一斉指導とともに、進度に応じた個別課題や個別学習の場を設定する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の草花等の環境の関係で、計画通りに進められないことがあった。季節の草花の観察、虫等生き物の観察ができなかった。 ・夏の遊び等実施できない内容があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に合わせて、見通しをもって児童の実態に合った内容を計画する。 ・ねらいに沿って実施できる内容・活動を考えて取り入れていく。(例 色染め・押し花等)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することが難しい児童がいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、まわりの音をよく聴いて合わせて歌ったりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用い、児童が正しく運指や鍵盤の位置を覚えられるようにする。必要に応じて個別指導を行う。児童同士での教え合いができるよう座席の工夫をする。 ・良い表情で歌っている児童や大きな口を開けて歌っている児童を前に出して歌わせ、その良さを他の児童が模倣できるようにする。自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な技能について、教師の示範を理解したり、指示理解が難しい児童が少数いる。 ・発想・構想の能力について、生活経験の中から自分の興味・関心のあることを表現することに留まり、材料・用具から発想・構想を広げられない児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで指示をしたり、掲示資料やICT機器を使用して視覚的に理解させたりする。 ・造形遊びの題材を経験させていき、材料や用具と関わりながら、試行錯誤して自分の思い付いたことや考えたことを表現していけるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・かけっこやマットを使った運動等において、運動量の確保の兼ね合いが難しい。 ・体を動かす楽しさを味わう運動・友達とかかわり合う運動・基本的な動きを身に付ける運動を意図的に取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動経験を踏まえ、無理のない範囲でグループ分けや児童同士の教え合いなどを取り入れる。 ・学習カードを工夫し、児童が運動に主体的に取り組めるように支援する。

2年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見に自信がもてず、人前で発表することに抵抗のある児童がいる。 ・漢字や言葉の使い方、文章の書き方の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動をする機会を増やし、発言回数を重ねることで少しずつ自信をもてるようにする。2人組や小グループでの活動などスモールステップを踏みながら、全体の発表につなげていく。 ・自分の思いや考えをノート等にも書き表す機会を確保する。 ・ワーク等を活用し、授業中や家庭学習を通して繰り返し練習させ、定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力や知識の定着には個人差が見られ、個別指導を要する児童が一定数いる。 ・文章問題や応用問題等で問われていることが理解できずにつまずく児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習を通して、継続的に反復練習をさせ、基礎基本が身に付くようにする。 ・問題文を読む際、分かっていることと問われていることを確認する。必要に応じて図や絵に表すことで問題の場面を理解できるようにさせる。また、友達の考えを知る活動などを通して、理解を深めさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての調べ学習を行い、発表する機会を設けた。自分たちで必要な情報を集めることやまとめること、発表することに戸惑いを感じる児童が多かった。 ・行事の重なりや猛暑による熱中症等の対策のため、昨年度同様にグループによる町探検の校外学習を二学期に見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を集める経験や集めた情報を分かりやすくまとめる機会を確保する。情報の集め方やまとめ方を提示しながら、繰り返し練習させる。 ・前年度以降、受け入れてもらっていた施設にアポイントメントを取り、引率や児童の実態を踏まえて二学期に可能な範囲で町探検の校外学習を実施する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるようになってきているが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだ難しい。 ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、技能の差が始めている。運指も難しくなってくるため、混乱してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れたり、ブレスの位置を意識しフレーズのまとまりを感じ取らせる。また、音符についての学習の中で各音符の長さに注目させ、演奏に活かすようにしていく。 ・実物投影機を用い、運指の確認を丁寧に行う。個別学習の時間を取り、児童同士の教え合いも取り入れながら少しずつ定着させていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な技能について、既習の用具の基礎・基本が身に付いていない。 ・発想・構想の能力について、自分の生活経験の中の興味・関心を色や形で再現することに留まってしまう児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の用具の扱いについて、ICT機器を使用して視覚的に理解させながら基礎・基本を身に付けさせる。 ・造形遊びの題材を取り入れることで、材料や用具と関わりながら、主体的に発想・構想を広げていけるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までのコロナ渦の影響もあり、運動する機会が減っているせいか、体力の低下が見られる。 ・ソフトボール投げや、ボールなどを扱った用具操作の運動に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間の運動量を増やすとともに、休み時間も天気の良い日は外で体を動かして遊ぶようにさせることで、体力の向上を図る。 ・領域ごとに特性に応じた感覚づくりの運動を一単位時間の中で取り入れ、主運動につなげていくようにする。

3年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに習った漢字を活用することが苦手な児童がいる。 自分の意見をうまくまとめられない児童がいる。 作文を書く際に、自分の意見を筋道立てて書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習の際に、頻出単語を取り上げる。 書き方を理解させるために、作文指導を行う。5W1Hを意識させて、文章を書かせたり、文章構成を指導していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図などの情報を基に、自分たちの生活に学習した知識を関連付けることがあまりできない児童がいる。 地図やグラフなどの読み取りができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が児童の生活経験と結び付くように授業の展開を工夫する。また、自分たちの住んでいる町に関心がもてるようにする。 地図やグラフの読み方を提示し、児童自身で読み取る活動を増やす。 児童の身近な資料を用意したり、動画を見せたりして授業を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に基礎的な知識や技能を習得しているが身に付いていない児童もいる。計算でのつまずきが見られる。 課題の意図をつかめない児童や言葉の支援が必要な児童がいる。自力解決に意欲をもち発表もすすんで行うが、解決方法を筋道立てて表現することは、まだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末などで継続的に計算練習に取り組む。 教材の提示の仕方を工夫したり、アレイ図や数直線などを活用したりして、個々の支援を行い、積極的に問題解決に取り組めるようにする。課題の題意を捉える時間を確保し、問題を整理しながら筋道を立てるよう支援していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に興味、関心をもち、意欲的に取り組んでいるが、観察、実験から得たことを考察することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験から得られた知識が、身近な生活の中でどこで生かされているかを児童に想起させる。また、授業のまとめにおいて、学習した知識を児童に質問しながら知識の定着を図る。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽のリコーダーでは、運指はほぼ定着している。息の入れ方や穴のふさぎ方に課題があるため、音が安定しない。 リズム譜は、ほとんどの児童が正しく読むことができるが、階名を正しく読むことにはまだ課題がある。 歌唱においては、低学年の元気いっばいな声から、響きの統一された歌声に変えていきたい。 鑑賞においては、感性を働かせて自分なりに曲の背景を想像したり、感じ取ったことをワークシートに記入したりすることができる。しかし、曲の雰囲気・表情などと音楽の構造との関わり合いを捉えながら聴くことはまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏する際の姿勢や息の入れ方、穴の塞ぎ方を確認しながら練習させる。継続した練習の大切さを説明しながら根気強く取り組ませる工夫をする。また、個別指導でそれぞれのつまずきに合わせた支援を行っていく。長期休業中を利用し家庭でも継続して練習に取り組ませる。 階名読みを定着させるためにフラッシュカード等を用いて、クイズ形式で確認する時間を設けたり、時間を設定して階名読みに集中して取り組めるワークシートを用意する。 聴き合う時間を適宜とり確認させながら響きのある歌声にまとめていく。 児童から出た意見が、感じ取ったことなのか、聴き取ったことなのかを整理し板書するようにする。また2つがどのように関わり合っているかを理解させ結びつけていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な技能について、用具や材料を扱う経験が少ないため、表現方法の幅が狭い。 発想・構想の能力について、自分の生活経験の中で興味をもっていることの再現に留まってしまう児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな用具・材料の扱いを経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 造形遊びの題材を取り入れることで、児童が自分の思い付いたことを自分なりの方法で試行錯誤しながら表現していけるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多い。運動が得意な児童と不得意な児童の二極化が見られる。 ボールを狙った方向に投げられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な技能が身に付いている子には、安全面を考慮して、さらに発展的な運動ができるようにする。 友達同士で支え合ったり教え合ったりする仕組みを作る。 体を回転させたり、体重移動を意識させたりして投げることを指導する。

4年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字が定着しない児童がおり、どの場面でも正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導をより一層充実させる必要がある。 物語文などの読み取りを広める際に、発言する児童が一部に偏ってしまいがちである。 自分の考えを文章に表せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを段階的に繰り返し行う。 漢字ドリルを繰り返し使って、書くだけでなく読む指導も取り入れ、日常的な指導を図る。 読み取りを深められるような授業の展開(個人一ペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。 感想の書き方や要点のまとめ方を提示し、短い文章作りから慣れさせていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習や新聞やレポート等に意欲的に取り組むことはできるが、自分たちの生活に関連付けることがまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入から自分たちの生活に結び付けられるような発問をする。 ICT機器を活用して写真や映像などを見せたり、社会科見学や出前授業を実施したりすることで、身近なものや社会的な事象とを関連付けて考えさせ、自分たちで実践できることを考えられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の習得に差がある。 自力解決のとき、既習事項を基にして問題を解決する方法がなかなか見いだせない児童や、考えをうまく表現できない児童がいる。 数のしくみや四則演算の基礎の理解が曖昧な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な児童に対し個別の支援を行うようにする。また、教材教具を工夫し、操作を通じて自力解決していけるようにする。継続的に計算ドリルやタブレット端末を利用して、継続的に取り組み、基礎的な知識・技能の定着を図る。 既習事項を基にして問題を解決できるように授業展開を工夫する。 前学年の指導に戻りながら、繰り返し指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験に興味・関心をもって取り組むことができるが、取り組み方や記録の仕方には個人差が見られる。問題解決型学習の仕方がまだ十分定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の方法・記録の仕方について、視覚的に捉えられるようにする。また、問題解決型の学習を継続的に行い、理解の定着を図る。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽ではリコーダーの技能面での個人差が大きく、運指や息づかいのコントロールが難しい児童がいる。 歌唱においては、正しい音程で歌うことが難しい場合もあるが、斉唱から部分二部合唱へと発展させた学習へと進めている。 鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造とを関わらせながら聴くことについては課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。また、児童同士で教え合う時間を確保しながら進めていく。適宜、補充学習を行う。 自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるよう、教師と児童が交互に歌ったり、友達同士で聴き合ったりする活動を取り入れる。また発声などの基礎練習を計画的・継続的に行っていく。 児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わり合っているかを考える場面を設定し結びつけられるようにしていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な技能について、用具や材料を扱う経験が少ないため、表現方法の幅が狭い。 発想・構想の能力について、自分の思い付いたことに合わせて表現を広げたり深めたりすることが難しい児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな用具・材料を経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 表現の途中などに鑑賞を取り入れることで、友達の作品のよさや面白さを自分の作品に取り入れられるようにする。また、造形遊びの題材を取り入れて、試行錯誤しながらさまざまな表現ができるようにしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動できるが、みんなと協力して安全に行動しようとする意識が低い児童がいる。 積極的に取り組んでいるが、どの活動においても技能面には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たち自身に課題を意識させ、タブレットも用いながら自分たちで主体的に活動できるようにする。 めあてをもって運動に取り組むことができるようにする。

5年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 ・相手の話を聴き取ることが苦手である。 ・文章の読み取りについては、文章の内容を的確に押さえることが苦手な児童への手だてが必要である。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 ・語彙力が少ない。読書を通じて語彙力を豊かにする必要がある。 ・漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分の意見と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 ・話し合い活動の際に、聴くことの必要性を確認してから活動する。 ・文章の展開を押さえながら要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 ・読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 ・小テストを行い、漢字の定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も自分たちの生活とのかかわり合いを考えながら、学習を深めることができるようにする工夫が必要である。 ・産業に従事している人々の工夫や努力について、具体的に調べることができるようにする。 ・資料やグラフから気付いたことや分かったこと、考えたことを、自分の言葉で書けない児童への手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表など資料を正確に読み取れるように、クラス全体で確認する。人々の工夫や努力に気付いたり、より具体的な内容に注目したりすることができるように話し合いをする機会を設ける。 ・資料から気付いたことや分かったこと、考えたことなどを書き出し、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。 ・興味や関心を引き寄せるような題材や資料を準備し、体験的な活動を通して、学習の浸透を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かし、自分の考えをノートに書いたり説明したりすることを苦手としている児童が多い。 ・正確な図形を作図することができない児童が多い。 ・基本的な計算の技能の定着が不十分な児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認を丁寧に行い、学んだことを基に考えていけるようにする。 ・正しい器具の使い方を動画で見せるなど視覚的に理解させる。また利用する単位では、その都度確認し、類似問題に多く取り組む機会を設定して、定着を図る。 ・計算問題は、タブレット端末反復練習を行うことにより定着を図る。授業の始まりや家庭学習で反復練習をする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習が十分に定着していない。生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うなど、問題解決の活動を行っていくことが必要である。 ・観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題の発見につながる考察ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の予想や結果の記録ができるように、条件や方法、結果など、思考の流れを分かりやすく表現するノート指導を丁寧に行う。 ・学習問題に対しての仮説を立ててから、問題解決に向けての活動に入るような学習の型を定着させる。 ・自分で調べたり、観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。 ・実験の技能が高まるように、教材や器具の充実を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の発音や、基本的な表現の定着の個人差が大きい。 ・講師、外国語活動指導員の役割が单元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、講師、外国語活動指導員との指導内容の共有をどのように進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や文字のカードやCDを活用して英語の音声や基本的な表現に親しみやすく学習する。 ・互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように工夫する。また、講師と連携し、各学年の指導計画や指導内容について外国語活動指導員と打ち合わせる。

5年	課題分析	授業改善策
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に関しては、斉唱であればのびのびと歌えていても、二部合唱になると音程に自信がなくなつられてしまう場面が見受けられる。 ・器楽においては個人差があり、特にリコーダーでは運指や適切な息づかいで吹くことに難しさを感じている児童がいる。 ・ト音譜表を読むことには慣れてきている。一方、ヘ音譜表に関してはまだ読めない児童が多い。 ・鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができるようにはなっている。学習したことを自分の言葉でまとめていけるようにしていくことが課題として考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きを手で表現したりと視覚的にも捉えるなど、耳だけの感覚だけではなく覚えさせていく。各パートの旋律を自信をもって歌えるところまで歌わせ、パートごとの並び順も考慮しながら、合わせる楽しさを味わわせた。 ・個別に補充学習を行ったり、児童同士の教え合いも行ったりしながら技能面での個人差を改善していく。 ・階名や音符に慣れるための教材(プリントやフラッシュカード)を使用する。 ・学習したことを自分の中で思考し定着しているか確認しながら学習を進めていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な技能について、さまざまな用具や材料の経験が少なく、表現方法の幅が狭い。 ・発想・構想の能力について、自分の思い付いたことや考えたことに自信がもてず、最後まで工夫して表現していけない児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな用具・材料の扱いを経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 ・造形遊びの題材を取り入れることで、材料・用具・場や空間と関わりながら主体的に表現できるようにしたり、活動の過程において、児童の発想・構想を共感的に声掛けしたりしていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫の技能面では、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で作業をサポートできるようにする。 ・学習活動の流れ、ポイントを児童が把握できるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に関しては個人差がある。 ・鉄棒やマットなど器械運動に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組めるようにするための手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果をもとに、それぞれの課題分析を行い、一人一人に合った個別指導ができるように工夫する。

6年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の低さが見られる。 書くことにおいて、自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 登場人物などの気持ちを考える力が弱い。 読書の活動に興味・関心を示す児童とそうでない児童の個人差がある。 漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習活動を通しての取組を価値付け、児童の考えや思いから、学習計画や単元を通じた問いを作成していく。 題材の工夫をする。児童に身近な題材を考え、書くことへの意欲をもたせる。 本に触れる機会の充実を図る。図書室の活用や練馬図書館と連携し、児童の実態に合った図書の充実を図る。 小テストを行い、漢字の定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る技術が乏しい。 学習問題を設定したあと、追究していく意欲が単元を通して持続しない。 歴史的事象と現代社会を結びつけて捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、資料を基に必要な情報を読み取る時間を十分に確保する。 歴史の単元では、人物調べを一貫して行う。歴史上の人物を調べることで時代の様子や功績などを追究して調べていく力を養う。 歴史的事象との結びつきを常に考えさせる問いを投げかけ、資料提示や映像資料などを活用して捉えさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着が不十分な児童が見られる。 公式など押さえるべき事項は定着しているが、公式の意味や正しい立式につなげていくことができない場面が見られる。 正確な図形を作図することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習事項を確実に身に付けさせるように、少人数指導の充実(教材の工夫、個別指導)に努める。 公式の意味や必要性を考え、共通認識のもとで活用できるようにしていく。いろいろな文章問題をじっくりと読み、問題場面をイメージさせながら公式の利活用の場面を増やし定着させていく。 正しい器具の使い方を動画で見せるなど視覚的に理解させる。また利用する単元では、その都度確認し、類似問題に多く取り組む機会を設定して、定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が定着していない。 観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題を発見などを行う考察ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うことで、問題解決型の学習につなげる。 自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語力の個人差が大きい。 スピーチをしていくための見通しがもてていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びができるように、グループで助け合って学習していくスタンスを取り入れる。 教師やALTがスピーチのモデルを毎単元準備し、イメージと意欲をもって取り組ませる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては、自然な発声でのびのびと表現することができている。しかし、男子の中には変声期に入ったことで自信をもって歌うことができない様子の児童もいる。 器楽に関しては個人差が大きい。 鑑賞においては、曲想の変化に気付くことはできるが、その曲のおもしろさや美しさを感じ取りながら聴き良さを見いだしていくことにつなげていけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 変声期を迎えた児童には、個別指導でその時期ごとの配慮を考えていく。変声期について全体で取り上げ、どの児童ものびのびと声の出せる雰囲気作りを行っていく。 個人の能力差を埋めるため、友だち同士で協力して音楽活動を進められるようにする。 音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで味わって聴き、良さを見いだせるようにする。

6年	課題分析	授業改善策
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な能力は、身に付いてきているが、個人差があったり教師の指示に頼ったりすることが多い。 ・自分の感覚や考えを大切に物事を捉えるのではなく、他から得た知識や友達の考えなどを基にして考えたり創造したりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じ、抵抗感ある素材でも選択を試みるよう助言する。 ・単元によっては、作品の用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 ・小学校卒業の節目を意識させることで、自分の感覚や考えを十分に働かせて取り組める題材設定をする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、同じように課題に取り組ませることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で支援し合える環境を整備する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・領域によって苦手意識がある。 ・体力テストの結果から体力の全体的な低下が見られる。 ・体を動かす心地良さを味わえていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての領域において学習カードを作成し、課題や成果を可視化する。また、板書の掲示資料を用いて、学習の見通しをもたせる。 ・体力テストの結果を基に、体力の弱い部分を把握し、学習する中で身に付けさせる指導計画を立てる。 ・運動する楽しさを味わわせるために学級の実態や個人差を把握し、それぞれの技能に合わせた練習の場やトリオ学習の実践する。